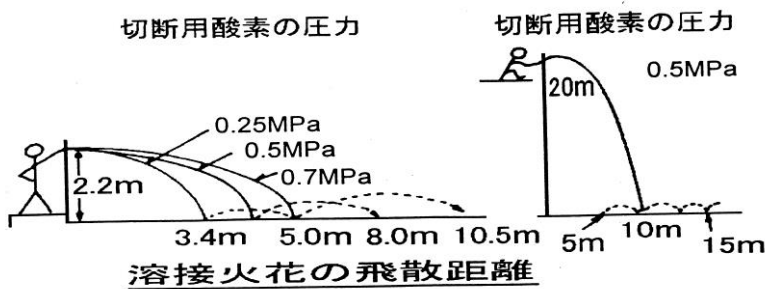


溶断作業等での出火防止を！

溶断・溶接作業中に
断熱材へ着火 建物全焼！
付近の木屑、布等に着火し、作業撤収後に燃焼拡大！

- ①周囲の整理整頓し，可燃物の除去・防災シートの使用を徹底
- ②水バケツ，消火器等を用意し，複数の作業員が協力して初期消火
- ③作業後に現場を離れる際には，臭気も含め十分に防火点検を実施
- ④付近で危険物を使用する作業が行われていないか確認



* 溶断・溶接作業における火花の飛散は5m～10mにも及びます。

* 隣接する住宅の軒や窓枠に飛んだ火花による火災も発生しています。

京都市内の工事現場等での火災事例

火災事例1 平成26年3月	解体工事中の建物の屋上において鉄筋を溶断していたところ，火花が発泡ウレタンに着火 同建築物の4階約150㎡焼失
火災事例2 平成26年12月	作業場の屋外において溶接作業を行っていたところ，火花が仮設トイレに着火 同仮設トイレ1基，作業場の屋根（断熱材）約15㎡焼失
火災事例3 平成27年7月	作業場の屋内において鉄骨の溶断作業を行っていたところ，火花が床面の油分が染み込んだ布，紙等に着火 同建物約270㎡，隣接建物2棟約60㎡の合計約330㎡焼失
火災事例4 平成27年8月	解体工事中の建物の屋上においてベランダの鉄製物干台を溶断していたところ，火花が階下の木屑等の付近に落下，作業員撤収後に燃焼拡大 同建築物約1500㎡焼失

